

博学連携講演会

「昭和」の大阪
— 都市の歴史、大学の研究 —

2025年 2月1日 (土)

12:30~17:30

大阪公立大学 杉本キャンパス
1号館 140周年記念講堂

参加費 2,000円

定員 200名 (事前申込要/申込多数の場合は抽選)

対象 どなたでも

講演会参加者に特別公開!!

「大阪市立大学140周年記念展示室」

大学史とともに、古人骨、大阪平野の地下断面図、古文書など大学の研究成果である大阪の自然と歴史に関する資料を展示しています。この機会にぜひ、ご見学ください。

開室時間 10:30~12:30

※開室時間内に自由に入出りいただけます。



4 質の高い情報を
みんなに



出典：国立国会図書館「NDLイメージバンク」(https://rnavi.ndl.go.jp/imagebank/)



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

地方独立
行政法人 大阪市博物館機構
Administrative Agency for Osaka City Museums



一般財団法人

大阪市文化財協会
Osaka City Cultural Properties Association

「昭和」の大阪

— 都市の歴史、大学の研究 —

大阪市立大学の前身である大阪商科大学は、昭和10(1935)年までに杉本町へ学舎を移転しました。当時、大阪は「大大阪」とよばれ、東京に匹敵する大都市として発展していました。その後、戦争の時代を経て、杉本キャンパスは占領軍による接収、学生運動の激化など、試練の時期を迎えます。しかし、そうしたなかであって、大学の研究者たちは世界的に注目される研究成果を生み出していきました。

本講演会では、大阪市立大学(現大阪公立大学)の歴史と研究の諸相を、都市大阪の近代史のなかで読み解いていきたいと思えます。

会場 大阪公立大学 杉本キャンパス 1号館 140周年記念講堂



申込方法

下の(1)(2)いずれかの方法でお申し込みください。

(1)申込フォーム 締切:2025年1月13日(月)

本学Webサイトまたは右記二次元コードから
お申し込みください。
大阪公立大学 生涯学習・公開講座Webサイト ▼



大阪公立大学 公開講座 検索

(2)往復はがき 締切:2025年1月13日(月)必着

①氏名(フリガナ) ②年齢 ③郵便番号・住所 ④電話番号
⑤「140周年記念展示室」見学希望の有無 ⑥このチラシの入手先
をご記入のうえ、下記宛て先へお送りください。
※返信用はがきは両面とも白紙でお送りください。

〒556-0012
大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル
大阪公立大学 社会連携課「博学連携講演会」係

※10月1日(火)より郵便料金が変わりましたので
ご注意ください。

注意事項

- ・申込多数の場合は抽選により参加者を決定します。
- ・受講の可否は2025年1月22日(水)までに通知します。届かない場合は必ずお問い合わせください。
- ・申し込みの際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

問い合わせ先

大阪公立大学 社会連携課

TEL 06-7656-5112 FAX 06-7656-5203
Eメール gr-shak-ext01@omu.ac.jp

大阪の都市計画とキャンパスづくり

木方 十根 鹿児島大学工学部 工学部長・建築学科 教授

近代の大阪は都市計画の先進地でした。そこではいち早く郊外型の大学キャンパスや、日本初の市立大学が誕生しました。この講演では大阪の都市計画が、我が国のキャンパスづくりに果たした歴史的役割を考えます。



大阪商科大学杉本学舎完成予想図
(大阪公立大学大学史資料室所蔵)

山根徳太郎の北京在外研究と大阪商科大学

栄原 永遠男 大阪公立大学大学院文学研究科 客員教授
大阪市立大学 名誉教授

大阪商科大学予科教授であった山根徳太郎は、昭和16年5月から1年間、日中戦争・太平洋戦争下の北京に滞在しました。北京での生活はどのようであったのか、これによって彼の研究はどのように変化したのか考えたいと思います。



天寧寺における山根徳太郎

杉本キャンパスと生きた化石『メタセコイア』

西野 萌 大阪市立自然史博物館 学芸員

メタセコイアは、生きた化石と呼ばれるヒノキ科の針葉樹です。元大阪市立大学教授の三木茂博士によって1941年に命名され、当時のキャンパス内には多くの苗木が植えられました。メタセコイアの発見の経緯や、大阪公立大学との関わりについて紹介します。



三木茂氏の制作したメタセコイア
化石のプレパラート標本

占領軍と杉本学舎『キャンプ・サカイ』の実態 — 戦前戦後の断絶と再生 —

松本 裕行 大阪教育大学附属高等学校池田校舎 教諭
(元大阪公立大学大学史資料室 客員研究員)

戦後直後、現在の杉本キャンパスは占領軍に接収され、「キャンプ・サカイ」あるいは「279th General Hospital」として転用されていました。その接収時の実態について、図面や写真を用いて解説します。



接収解除直後の1号館周辺

現在に連なる本格的な総合大学の整備と学生運動

中瀬 哲史 大阪公立大学大学院経営学研究科 教授

大阪市立大学は米軍からの杉本学舎の全面返還、1960年以降の同窓生からの援助も加わった本格的な整備の後に大学紛争に巻き込まれ、その後も学生運動に悩まされます。この時期はどんな時期だったのか、皆さんと一緒に考えたいと思います。

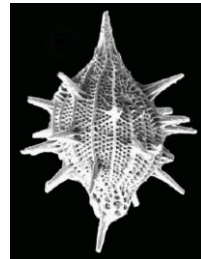


大学紛争時の3号館
(大阪公立大学大学史資料室所蔵)

放散虫化石がおこした革命

桑原 希世子 大阪公立大学国際基幹教育機構 准教授

日本列島の基盤の年代は、フズリナ化石などから古生代と考えられていました。しかし1980年代初めに放散虫化石の研究が爆発的に進み、中生代へと書き換えられました。プランクトンの化石が果たした大きな役割を紹介します。



ジュラ紀の放散虫化石